

Ladder

平成22年8月26日 第9号

北海道教育庁学校教育局

参事(生徒指導・学校安全)

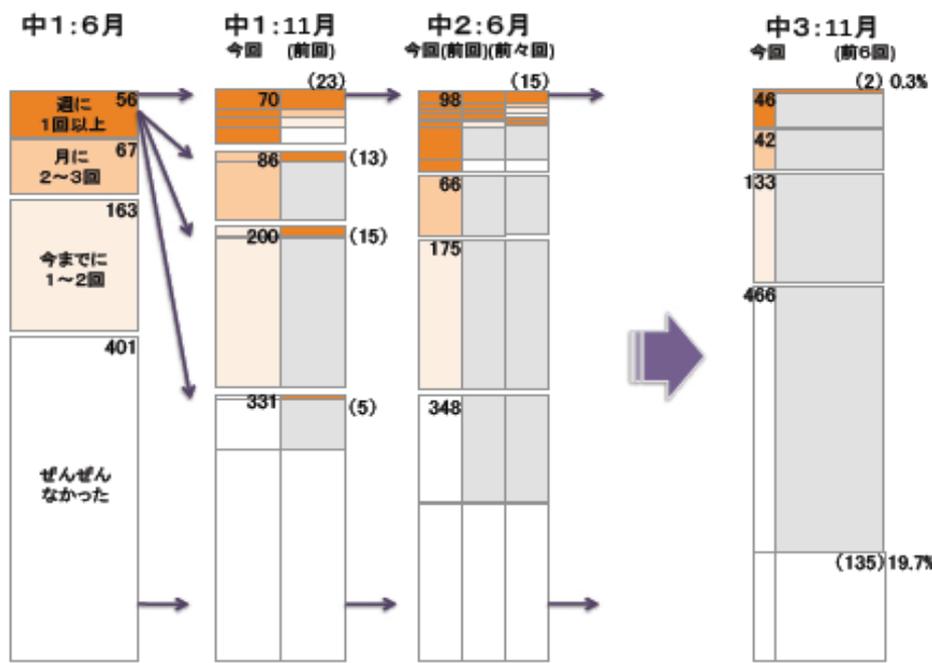
中1ギャップ・高1クライシスを解消するために

Q 「いじめはどの子どもにも起こり得る」とは、どのようなデータによるものですか。

国立教育政策研究所の「いじめ追跡調査」からは、いじめは一部の子どもだけが被害に遭ったり、加害行為を繰り返したりしているわけではないことが明らかになっています。

このため、いじめはほとんどすべての子どもが被害を受けたり、加害行為に加わったりという形で巻き込まれていく問題であることを踏まえ、「どの子どもにも起こり得る」ということを文字通りの意味で受け止め、緊張感を継続して対応することが必要です。

2004年度中学1年生の学年進行に伴う被害経験人数の推移

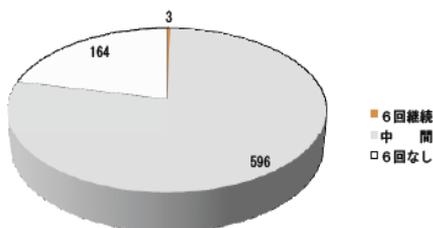


左図の学年の中で、「仲間はずれ、無視、陰口」について、「週に1回以上」という高頻度の被害経験があると答えた生徒は、毎回50~100名(7~14%)程度存在するにもかかわらず、それが半年後まで続くのは、半分以下である。(1年時の6月には56名だったのが、その年の11月には70名に増えているにもかかわらず、前回は引き続き高頻度の被害経験があるのは23名にとどまっている。残りの33名(=56名-23名)は、「月に2~3回」に減ったのが13名、「今までに1~2回」が15名、「ぜんぜんなかった」が5名に変わっている。)

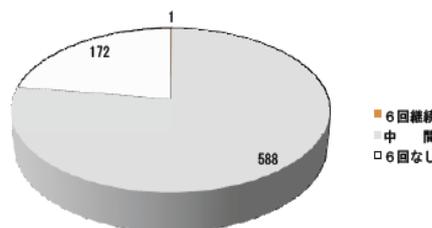
また、3年生時の11月を見ると、6回とも「週1回以上」の被害経験があったものは2名(0.3%)である。

さらに、「ぜんぜんなかった」と答えた生徒についても、当初は401名(58.4%)であったものが、最終的には135名(19.7%)にまで減り、中学校3年間の間に、何の被害経験もなかったのは2割以下であり、8割以上の生徒は「仲間はずれ、無視、陰口」の被害を、ある時期に何らかの頻度で経験している。

2007年度小4→2009年度小6の3年間の被害経験



2007年度小4→2009年度小6の3年間の加害経験



小学校についても、被害経験が3年間、6回にわたって継続したものは3名(0.4%)、まったく経験がなかった者は164名(21.5%)であり、加害経験が3年間、6回にわたって継続したものは1名(0.1%)、全く経験がなかった者は172名(22.6%)である。

「Ladder」は学校間の接続を図る「はしご」を意味しています。